

滋賀県道路整備アクションプログラム  
地域別アクションプログラム（大津地域）第1回地域ワーキング

議 事 概 要

日 時：令和4年7月27日（水） 14時00分～16時00分

場 所：滋賀県危機管理センター1階大会議室

出席者：青山 知子 委員（大津交通安全協会 女性部長）

大森 睦浩 委員（大津北警察署 交通課長）

鬼塚 泰二 委員（大津市建設部 道路建設課長）

後藤 佳子 委員（大津市地域女性団体連合会 副会長）

佐藤 祐子 委員（公益社団法人びわこビジターズビューロー 副会長）

須山 進 委員（大津商工会議所 観光運輸部会）

高岡 裕子 委員（大津警察署 交通第一課長）（代理出席：原田 毅氏（規制係係長））

竹平 陽 委員（公募委員）

野村 義明 委員（社団法人滋賀県バス協会 専務理事）

丸山 忠司 委員（社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事務局次長）

横田 久美子委員（大津市教育委員会児童生徒支援課 主幹）

（五十音順）

1. 開会挨拶（岸田 大津土木事務所長）

- ・県は、昨年度に「都市計画基本方針」と「道路整備マスタープラン（第3次）」を策定した。これらの上位計画に示した目指す姿に向け、大津地域で真に必要な道路整備を行っていきたい。

2. 委員紹介

3. 地域ワーキング設置要領の確認、座長選出

- ・委員の互選により、座長には、小川圭一委員（立命館大学 理工学部 教授）を選出した。

4. 地域ワーキング

（1）事務局説明

- ・事務局より、資料4に基づき説明を行った。

（2）意見等 自由討議

○各委員からの主な意見等については以下のとおり。

#### 【交通渋滞について】

- ・国道1号・8号の整備が遅れていると感じている。滋賀県は、国道1号・8号を通勤や日常生活で必ず通らないといけないといけない立地条件になっているため、慢性的な渋滞が発生している。
- ・瀬田～膳所～逢坂にかけての国道1号が生活道路となっており、慢性的な渋滞が発生している。山科の方へ抜ける国道1号バイパスが必要である。
- ・新たな道路整備を進めていただいているが、新しい道ができて信号や渋滞を避けて抜け道利用の車が生活道路に進入してくる。そこが通学路等になっており、危険を感じている。
- ・抜け道利用を減らすための対策として、カーナビの案内など技術面から対応できないか。
- ・渋滞の原因の一つに、自家用車による通勤があると思う。道路をいくら整備しても、多くの方が自家用車で通勤するのでは渋滞は解消されない。できるだけ公共交通機関を利用してもらおうという視点で、道路整備と併せて色々な施策を検討していかなくてはいけない。
- ・キャパを超えて人が集まってきて渋滞を引き起こしている。新たな住宅地開発は、まちづくりをきちんと考えて、将来予測の基に実施しないと渋滞がいつまでも解消されない。
- ・水口栗東道路が完成すると、山手幹線に新たな交通が流入してくることになる。瀬田の市街地に車が入ってくるので、瀬田川を渡る車の渋滞が懸念される。国道1号のバイパスが必要だと思うので、国にも要望している。
- ・近江大橋を無料化したのは良かったが、交通量が増えて交通渋滞が発生している。瀬田川を渡る橋がもう一つ必要だと思う。
- ・御堂筋のような一方通行化をすることで安全性も担保でき、渋滞も解消されるのではないか。新たな道路整備には多額の予算が必要であることから、道路利用における社会実験のような取組をしてはどうか。
- ・県道沿いの店舗への侵入の右折・左折で渋滞しており、何か事故や災害があった時に車がどちらにも抜けられない。なぜ渋滞しているのか、何が起きているのかも分からないことがあり、リアルタイム情報の発信が望ましい。

#### 【緊急時・災害時について】

- ・消防車・救急車が現場到着するのに年々時間がかかっている。新しい道を整備することは救命の道となる。国道1号をはさんで西側に、山科に向かうBPなど、大きな道路の建設も検討してもらいたい。
- ・湖西道路、国道422号、477号、367号などの幹線道路が、土砂災害警戒区域の中を通っている。人を守るという視点からは、なるべく外していただきたい。もしくはそれに対応する対策が必要ではないか。
- ・緊急時や災害時に現場へ急行しなければならない際に、幹線道路が通行止めであれば、幹線道路以外の道路を迂回路として使うことになるので、市街地の中の整備や幹線道路の複線になる道路整備が進んでいけばと思う。
- ・迂回路の無い幹線道路で交通事故があり、通行止めにより、車がまったく通れなくなった。

その間、110番があれば大きな遠回りを余儀なくされる。幹線道路と併せて、並行する道路の整備を進めてもらいたい。

- ・道路整備の際には、避難通路としても活用できる、バリアフリーに配慮した歩道を作っていただくことが有効だと思う。

### 【交通安全について】

- ・今後の道路整備を考えるときに、交通安全について比重を大きくしてもらえると良いと思う。
- ・きれいな道路ができると交通量が増え、車速も早くなる。見通しが悪いところにはカーブミラーなど、何かしらの対策を行ってほしい。
- ・大型車両の通行によりアスファルト舗装が損傷し、危険な箇所がある。
- ・バス停でバスを追い抜いた先に横断歩道を渡る方との兼ね合いなどで危険なバス停がある。道路構造上の問題だが、バス停の移設も絡め、地域の人の安全を確保してほしい。

### 【交通安全について（歩行者・自転車）】

- ・抜け道利用の車が通学路にも入ってくるので危険を感じている。安全対策として、ハード対策と交通規制や取り締まりを実施していただいているが、子どもたち自身が自分で身を守れる対策も進めている。
- ・見守り隊も高齢化等で減っているなので、人が立たなくても安全が確保できるような整備が必要。
- ・通学路点検では、交差点の対策を求める人が多い。また、歩道の設置・拡幅、自転車との分離、樹木の剪定などを求める声もきく。
- ・歩道と車道が明確に区別されていない道路が非常に多い。優先順位を付けるときに、その視点をしっかりと明確にしていきたい。
- ・信号機は安全と円滑を図るために設置しているが、必要のないところで信号待ちをすることで、生活道路への流入につながっているのは課題。
- ・標識を積極的に導入して、「このエリアは生活道路」と明確に表示してはどうか。
- ・免許更新時の研修など、滋賀県ならではのルールや具体例を出して、生活道路の抜け道利用を抑制するような講習会や勉強会があったらいいのではないかな。
- ・県の施策としてビワイチを推進するということで、自転車専用レーンが車道に引かれたが、車を運転していて怖く感じる。自動車渋滞していても、すごいスピードで走っているので、石でつまずいたら大事故になるのではないかなと思う。県外から来る方が多いと思われるので、地元の事情を分かっていない分、自動車・歩行者との兼ね合いを考えていかないといけないと思う。
- ・観光客が増えてきているが、道を整備する上では、県外から遊びに来ている方と地域で生活している方との共存が重要。分かりやすい標識が必要。
- ・旧志賀町では日常生活において高島大津線を多く利用している。自転車走行のために青い線が引かれているが、夏になると自転車通行が多く、車にとっては非常に怖く感じる。
- ・車にとっては便利になったが、歩行者など、ユニバーサルの観点も抜け落ちないようにし

てもらいたい。

- ・道路整備により、非常に便利になって喜んでいる一方で、自転車で通行するには危険を感じる箇所もある。

### 【まちづくりについて】

- ・公共交通機関をしっかり担保して、車を使わない大津市、滋賀県を作っていければと思う。
- ・住民は学区意識が高いが、拠点連携構想を進めるのであれば、生活としてある学区と連携拠点としてのすり合わせをしないといけない。
- ・市内でも北部と南部で状況が違う。また、社会情勢も変わってきている中で、南北東西でとるべき施策がある。
- ・過疎地を活性化するインフラの整備が必要。
- ・市内でも地域での格差がある（旧志賀町の整備が遅れている）。
- ・駅ロータリーの使用ルールが曖昧で、バスの運行に一般車両が影響を及ぼしている場合がある。一般車両の送迎についてのルールを明確にするべき。
- ・自家用車と公共交通機関との棲み分けができるようなロータリー整備が必要。
- ・キャパを超えて人が集まってきて渋滞を引き起こしている。新たな住宅地開発は、まちづくりをきちんと考えて、将来予測の基に実施しないと渋滞がいつまでも解消されない。【再掲】